

## 令和3年度第1回鹿沼市総合教育会議 議事録

### 1 日 時

令和3年8月20日（金） 午後1時30分～午後2時20分

### 2 場 所

鹿沼市役所特別会議室

### 3 出席した委員

市 長	佐藤 信	教 育 長	中村 仁
教育長職務代理人	鈴木 泉	教 育 委 員	倉松 俊弘
教 育 委 員	平野 美恵	教 育 委 員	宮田 里枝

### 4 出席した事務局職員

教 育 次 長	高橋 年和	教育総務課長	駒場 秀明
学校教育課長	大貫 照実	学校教育担当	猪瀬 武
生涯学習課長	塩澤 恵功	文化課長	渡辺 靖
スポーツ振興課長	谷津 勝也	国体推進室長	大場 隆光
共同調理場長	高橋 学	図書館長	田野井 秀雄
教育総務課	津吹 真章	教育総務課	山本 敬子

### 5 傍聴者

なし

### 6 会議の概要

#### (1) 開 会（進行：駒場教育総務課長）

#### (2) 挨拶

##### ア 市長挨拶

ご多忙中のところ総合教育会議にお忙しい中ご出席をいただき、誠にありがとうございます。また日頃から教育委員の皆様には、様々な面でご協力をいただき、感謝を申し上げます。新庁舎のこの会議室も初めてかと思いますが、鹿沼組子などできるだけ鹿沼の木を使った仕上げとなっています。これを見て工業団地の新社屋にも社長即断で組子が入り入れられることになったと聞いており、市特産品PRの役割を果たしていけるものと感じています。

新型コロナウイルスについては、専門家の予想よりも早いスピードで広がっていることに危機を感じています。学校を含め様々なところで支障が生じてきている状況ですが、行政としてワクチン接種等を進めながら、基本であるうがい手洗い、密を避けることの呼びかけ、事業所などへの協力要請など、しっかりと対策を取っていきたいと思います。県とも連携を図りながら、感染者対応し施設などにも取り組んでいきます。

本日は教育ビジョンの策定ということで教育委員の皆さんの忌憚のないご意見をお願い申し上げ、挨拶とします。

## イ 教育長挨拶

市長においては、総合教育会議を開催いただき感謝申し上げます。また、委員皆様にも教育施策の推進にあたり、日頃からご尽力を賜り、改めて敬意と感謝を申し上げます。本日の会議のテーマは「教育ビジョン策定の進捗について」であります。教育ビジョンは今後5年間の教育施策の目標を示すものであり、市長また委員の皆様にもご確認いただくとともに、ご意見を賜り、精査していきたいと考えています。

教育行政を取り巻く課題は、児童生徒の減少やICTの活用など多種多様であり、内容も変化しています。さらには新型コロナにより学校環境も大きな変革の時期を迎えているところです。そのような中、教育行政の推進においては、上位計画となる次期総合計画との整合性を図りながら、未来を担う子どもたちが生き生きと成長できるための施策を新たなビジョンに位置付けていきたいと考えています。今後も市長部局との連携を強化し円滑な業務遂行を図るとともに、皆様にはこれまでどおりのご支援をお願い申し上げます。

## (3) 協議

### 次期教育ビジョン策定の進捗について

(説明)

「資料1～4」…事務局

「次期教育ビジョンについての考え」…中村教育長

(意見交換)

鈴木委員 教育長からの説明にもあったがICT教育が始まった。少し前に市内17校を訪問したが、タブレット端末の使い方については進んできたと感じる一方、応用が課題だと感じた。指導者の育成を注意して進めていかないと学力テストでも応用編に対応できなくなってしまう。ビジョンにも指導者の育成を盛り込んでいく必要があると思う。

倉松委員 人口減少に伴い児童生徒も減少しているが、逆に特別支援学級の生徒が増えており重要性はますます高まるので、教員の数や研修も必要となるので支援してほしい。また、幼稚園等から小学校、小学校から中学校など進学する際には、他部局とも連携して情報の共有を図り、個々の資質能力の育成に取り組んでもらいたい。

平野委員 教育長からの話にあった非認知能力についての意見を述べたい。聞きなれない言葉であるが、自己肯定感、やる気、集中力、

自制心、粘り強さなど、昔から言われているようなものかと思う。今、このようなことが取り上げられるのは、人口減少やICT化などもあり人との関わりが減ってきているということもあるのかもしれない。新学習指導要領の中でも評価の中に主体的に学習に取り組む態度が上げられており、これまでの研究からも幼児教育の頃から必要ということも分かっている。鹿沼市もさらなる幼小連携とともに、低学年学級での指導の教科と教員の充実にも入れていってほしい。また、家庭と学校との連携も強化し、保護者の方にも浸透してさせてほしい。

宮田委員 コミュニティスクールについてだが、これまでの5年間で準備やモデル校実施など行い、今後は全校設置に向けて進んでいくかと思う。多くの人の協力が必要になるので、アンケート結果にあったように学校教育への協力ボランティアや、近所との関係向上がコミスクに関わる人の増加につながる。まずは研修や地域の中で活動することによる人づくりを継続して取り組んでほしい。また、学校が望むこと、地域の課題などをすり合わせながら複数年かけて継続的に実施していくことで、子どもにとっても、地域全体で課題解決に向けて取り組んでいることが感じられるようなコミスクの運営を支援してほしいと思う。

市長 委員から4つの項目について意見があったが、ICTについては、タブレットの配布が目的ではなく使い慣れることが必要。子どもたちの多様性や能力を引き出すための入口として重要な意味があると思う。学校では試行錯誤の連続だろうが、鈴木委員の言うように教員の役割は非常に重要であるので、指導力向上に充分気を付け、子どもの将来に向けて効果が発揮できるよう取り組んでいくための支援をしていきたいと考える。

特別支援教育については、将来に不安が少しでも取り除けるような教育をしていくことが必要と思っている。多様性や違いを認める機運が高まってきており、指導の面からもスタッフの確保などいろいろ課題はあると思うが重要性は認識しているので、今後も適切に対応していきたい。

非認知能力については、理屈でなく形から入るということも必要かと思う。うまく説明できないが、例えば挨拶などは繰り返し続けていくことが必要で、体感したこととして登校する児童の挨拶に対する反応が学校によって大分違った。学校の指導の差なのかもしれないが、このことから、挨拶や感謝の気持ちは繰り返し積み重ねで身につけていくということが非認知能力の向上につながってくるのではないかと感じる。

コミュニティスクールについては、まず作ることが第一歩だ

と思う。形を作り活動してく中で、地域や子どもにとって一体になれる下地が出来てくると感じているので、モデル校など参考にしながら進めていくことが必要だろう。先ほどのアンケート結果の中で、教育の役割分担の項目において、保護者は学校が担う、学校は家庭や地域が担うとなっており、保護者と学校のギャップを感じた。個人的にはしつけなどは家庭が責任を負うべきと思うが、とはいえ家庭にも事情があるのかもしれない。ただ学校に求められることは多いので、このコミュニティスクールの中で相互理解が進んでいけば、地域に密着した子育てができると思うのでこれからも充実を図っていきたい。

その他の意見として、

鈴木委員 施策の中に道徳が入っていない。教育長の話の中の納得解に対する答えになってこないなので、重点施策として道徳教育を含めるべきと思う。

今回出された意見や、教育ビジョン検討委員会からの意見も踏まえ検討し、策定していくということを確認した。

(4) その他  
なし

(5) 閉 会